

海外経済

		8月	9月
世界経済		<p>世界の景気は、全体として回復がさらに緩やかになっており、アメリカでは、極めて弱いものとなっている。 先行きについては、緩やかな回復が続くと見込まれる。ただし、景気が下振れするリスクがある。</p>	<p>世界の景気は、全体として回復が弱まっており、アメリカでは、極めて弱いものとなっているほか、ヨーロッパ地域では、持ち直しのテンポが緩やかになっている。 先行きについては、弱い回復が続くと見込まれる。ただし、景気が下振れするリスクがある。また、このところの金融資本市場の動きに留意する必要がある。</p>
アメリカ		<p>アメリカでは、極めて弱い景気回復になっている。 先行きについては、極めて弱い景気回復が続くと見込まれる。また、失業率の高止まりや住宅価格の下落等により、景気が下振れするリスクがある。さらに、財政緊縮の影響に留意する必要がある。</p>	<p>アメリカでは、極めて弱い景気回復になっている。 先行きについては、極めて弱い景気回復が続くと見込まれる。また、失業率の高止まりや住宅価格の下落等により、景気が下振れするリスクがある。さらに、このところの金融資本市場の動きや財政緊縮の影響に留意する必要がある。</p>
アジア地域	中国	<p>中国では、景気は内需を中心に拡大している。 先行きについては、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、不動産価格や物価の動向に留意する必要がある。</p>	(変更なし)
	インド	<p>インドでは、景気は内需を中心に拡大しているが、拡大テンポがやや緩やかになっている。 先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、物価上昇によるリスクには留意する必要がある。</p>	(変更なし)
	その他アジア地域	<p>その他アジア地域では、総じて景気は回復しているが、回復テンポが緩やかになっている。 先行きについては、緩やかな回復傾向が続くと見込まれる。ただし、欧米向け輸出の減少や物価上昇により、景気が下振れするリスクがある。</p>	(変更なし)
ヨーロッパ地域		<p>ヨーロッパ地域では、景気は総じて持ち直しているものの、国ごとのばらつきが大きい。ドイツでは回復、フランスでは緩やかに回復している。英国では足踏み状態にあるが、一部に弱い動きがみられる。 ヨーロッパ地域の先行きについては、基調としては緩やかに持ち直していくと見込まれる。ただし、各国の財政緊縮による影響に留意する必要があるほか、一部の国々における財政の先行き不安を背景に金融システムに対する懸念が払拭されていないこと、高い失業率が継続すること等により、景気が低迷するリスクがある。</p>	<p>ヨーロッパ地域では、景気は持ち直しのテンポが緩やかになっている。ドイツでは回復のテンポがこのところ緩やかになっており、フランスでは足踏み状態にある。英国では足踏み状態にあるが、一部に弱い動きがみられる。 ヨーロッパ地域の先行きについては、極めて緩やかな持ち直しが続く見込まれる。ただし、各国の財政緊縮による影響に留意する必要がある。また、一部の国々における財政の先行き不安を背景に金融システムに対する懸念が高まり金融資本市場に影響を及ぼしていること、高い失業率が継続すること等により、景気が低迷するリスクがある。</p>